



**Preview**

---

**113**

---

誠信プレビュー

---

目次		
寅彦曼荼羅——因果の網状図	山本貴光	3
Preview 読者の皆様へ		7
Review 「子どものこころのケア」に関する本		15

山本貴光

## 寅彦曼荼羅——因果の網状図

---

2011年3月11日の大震災を経て、科学者としての寺田寅彦（1878 - 1935）が思い出されている。自らも関東大震災を経験し、地震学者として精力的に被災状況を調査し、やがて再来する大地震に備えよと警鐘を鳴らした人物である。その地震に関する文章を集めた書物が数種類、久しぶりのことで新刊書店に並んでいる。

他方で、多くの方はむしろ名随筆家としての寅彦に親しんできたかもしれない。その随筆集は版を重ね読まれ続けてきた。同時に彼は、俳諧連句や絵画の創作や批評、ヴァイオリンやチェロをはじめとする音楽演奏、映画評論、あるいは諸言語への関心など、終生にわたって幅広い関心と実践を重ねた人物でもあった。

このような人物を見ると、つい万能人とか好事家と呼びたくなるかもしれない。だが、そうしたレッテルを貼って片付けてしまうのはあまりにももったいないことだ。むしろ積極的にこう言ってみたい。交通網と情報網の発達普及によって、世界がますます小さくなり、以前には考えられなかったほど大量の情報やデータに埋もれている私たちにこそ、寅彦のようなものの見方が必要なのではないかと。

ある人物が、この世界をどう眺めていたかということを知るには、いくつかのポイントがある。一つは因果についてどう考えているかだ。どういうことか。二つの極端な例を並べると、話が見えやすくなると思う。

一つは、機械論的な発想。すべては物質の運動と相互作用によって決まっているのだから、そうしたことが隈無く判明すれば、物質全体が将来どのようになるかも予測できるという見方。決定論ともいえるこの立場からすると、世界に偶然はない。なにしろ物質、ミクロに言えば素粒子の状態やふるまいが判れば、その状態の変遷は予測可能というわけだから。

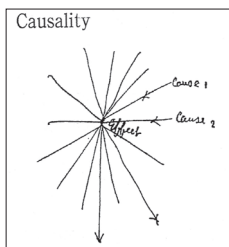
もう一つは、森羅万象は相互に関係しあっているのだから、なにが起こるかということは簡単に予測できず、知ることはできないという立場。なるほど科学は、条件を制限した理想状態については予測するし、そのおかげでロケットを飛ばすこともできる。しかし、ビルの屋上からリンゴを落としたり、いつでも理論の予想通りになるかといえば、そうもいかない。リンゴがたまさか通りがかった鳥に当たり、風で進路が逸れてしまうかもしれない。このように考える人にとって、世界は偶然に満ちている。不可知論の立場である。

これは古来西洋哲学史において議論百出して今日に至る難問だ。「人間には自由意志があるか」という問いも、このヴァリエーションの一つ。すべてが物質のふるまいで説明できるなら、わざわざ意志や精神があると考えする必要はない。いやいや、私たちの実感からしても、意志や精神がないとはとうてい考えられない云々。脳科学や神経科学が進展する昨今だが、心脳問題とも呼ばれるこの問題、いずれにせよ答えは出ていない。

寅彦が面白いのは、いわばこの二つの極端な立場をも手放さないことだ。物理学者としては、機械論的な発想に傾いてもおかしくなさそうなところだが、彼は人が日常的に感じている偶然の感覚を切り捨てない。そして、その因果観にこそ、寅彦の真面目がある。

さて、ここに面白い図がある。

これは完成した暁には主著となるはずだった『物理学序説』を書く際、寅彦が手帖に描いた図だ（『寺田寅彦全集』第23巻、岩波書店、1998年、162頁より引用）。原因（Cause）と結果（Effect）の関係が、集中する線、あるいは一点で交わりそこから放射する線として描かれている。



ちょっと大袈裟に言えば、この図には寅彦の宇宙観の要諦、その全体を読み解くためのヒミツが凝縮されている。寅彦は、物理学が考える機械論的因果と、それだけでは説明のつかない歴史や社会を含む日常的な因果の双方を念頭において因果を考えようとした。

そこで彼は、この宇宙で生じる出来事の全体を因果の鎖ではなく、網のようなものとイメージする。この図はそれを煎じ詰めたモデルだ。実際、寅彦は「すべての事象は直接間接にすべての他の事象に 연관していると考えた方が妥当である」と見ている（同書第10巻、105頁）。だから、本来であればこの網は細かく複雑な織物のようになるはずであり、そこには科学的因果も含まれれば、科学が埒外に置く因果も含まれている。

例えば私たちは、歴史の出来事を説明するとき、本当は無数にあったはずの因果の大半を脇に置く。第一次世

界大戦はなぜ起きたか。そう問われてなにが思い出されるだろう。かつて世界史で習った知識もあれば、専門書を通じて得た知識もあるだろう。いずれにしても、出来事を有限の因果で捉えている。それは寅彦の網状因果図で言えば、龐大な因果の線のうち、どれを主要なものとして選ぶかという選択の問題でもある。

科学の場合も同様で、先に挙げた落体の運動を考える際、その運動の方程式は、位置と加速度と時間の関係で表わされる。このとき、空気抵抗という因果の線は切られている。鳥や風との因果関係も考慮しない。

とはいえ、科学における因果観も一定ではない。後にカオスや複雑系と呼ばれる領域が発展して、一見乱雑ででたらめに見えた自然現象が、その実ある単純な規則に従った結果の累積と見なされるようになる。そこでは、ほんの小さな条件の違いから、結果に大きな違いが生じるという現象も注目されることになった。

寅彦は、随筆のなかでときどきナポレオンに言及する。もし後にナポレオンとなるはずの精子の進路がちょっとでもずれていたら、彼は生まれず、後の世界史も大きく違っていただろうという次第。これは寅彦が愛読したポアンカレの『科学と仮説』に現れる卓抜な喩え話だ。ごく小さな原因が甚大な結果へとつながる因果の機微を、読者の脳裏に刻み込まずにはおかない。

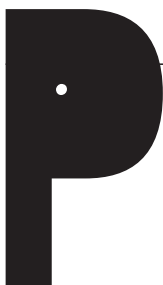
他ならぬ寅彦の活動全体を、こうした網状因果の観点から読み直すと、なにが見えてくるか。おそらく余人が科学と芸術とに分けて済ませている事物のあいだにも、無数の線が浮かび上がってくるはずなのである。

(やまもと たかみつ / 文筆家)

# 読者の皆様へ

## 誠信書房出版案内

---



---

小社の出版物は全国の主要書店の店頭にてお求めいただけます。店頭がない場合には注文にてお取り寄せください。

直接送付をご希望の場合は、お名前ご住所（お届け先）、電話番号、ご注文の書名、冊数を明示のうえ、電話、FAX、e-mail (sei@seishinshobo.co.jp)にてお申し込みください。代金引換郵便にてお送りいたします。送料は1回につき一律200円です。お受け取りの際に代金（価格合計+消費税+送料）を郵便局係員にお支払いください。

公費でのご購入などで、代金引換郵便が不都合な場合には、ご一報ください。

小社の新刊書および既刊書は、インターネットのホームページでもご案内しておりますので、ご利用ください。

本誌をご希望の方は、直接小社にお申し付けください。定期的にお送り（無料）いたします。

---

〒112-0012 東京都文京区大塚3-20-6

電話 03-3946-5666 Fax 03-3945-8880

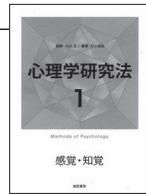
<http://www.seishinshobo.co.jp/>

---

2011年9月15日刊行

# 心理学研究法 1

## 感覚・知覚



大山正 監修 村上郁也 編著

感覚・知覚の現場にどっぷり漬かって研究の実際を知り抜いている執筆者が各分野の方法論を熱く語る。生身の身体をもつ研究者が、自分自身や実験参加者の身体を、見る・聞く・触る・嗅ぐ・味わうという生物本来の生々しい所行を元にして、試行を繰り返し抽象的かつ要約的な感覚・知覚データを手中に、こころの振る舞いを数理的に表現する。その作法を書き下して一冊に編んだ書。

- 
- 第1章 感覚・知覚心理学の研究史  
古代哲学 / 実験心理学 / 現代の心理物理学 / 他
  - 第2章 心理物理学の基礎概念  
心理物理学とはどのような学問か / 他
  - 第3章 心理物理学的測定法  
調整法・極限法・階段法・恒常法 / 他
  - 第4章 信号検出理論  
反応バイアス / ROC 曲線 / 二肢強制選択法 / 他
  - 第5章 視 覚  
視覚系の構造 / 色 / 運動 / 奥行き / 形 / 他
  - 第6章 聴 覚  
音の基本的性質 / 実験の統制 / 聴覚研究の例
  - 第7章 体性感覚  
体性感覚概論 / 実験手法 / 刺激呈示・計測方法
  - 第8章 前庭機能・眼球運動  
前庭機能 / 眼球運動 / 前庭器官と眼球運動の関わり
  - 第9章 嗅覚・味覚  
刺激 / 刺激呈示法 / 閾値の測定 / 閾上感覚強度の測定 / 質の測定 / 快・不快度の測定 / 嗅覚・味覚能力を測るテスト

---

おおやま ただす：元 東京大学教授・元 日本大学教授

むらかみ いくや：東京大学大学院総合文化研究科准教授

---

A5判 286頁 / 定価 3570円 (本体 3400円 + 税)

ISBN978-4-414-30181-6

---

2011年10月15日刊行予定

# 八つの人生の物語

不確かで危険に満ちた時代を道徳的に  
生きるということ



A. クラインマン著 皆藤 章 監訳 高橋 洋 訳

人間であることの意味を問い、生存に関わる道徳的人間的体験を生き抜くことを余儀なくされた激しい人生を生き抜いた八人の男女の物語。精神科医クラインマンは、戦争、グローバリゼーション、貧困、社会的な不正等、現代の混乱した問題点を通して、「私たちはいったい誰なのか」を探求する倫理への画期的なアプローチを本書の中で提起している。

第1章 はじめに

第2章 ウィンスロップ・コーエン

——第二次世界大戦を兵士として生きた、アメリカ人男性の物語

第3章 アイディ・ボスク・レマルク

——内戦のアフリカで闘ったひとりの民間人女性の物語

第4章 厳 忠樹（イエン チョンシユ）

——文化大革命からいまを生き抜き、成功した中国人男性の物語

第5章 チャールズ・ケントワース・ジェイミソン

——性的空想から慢性頭痛に苦しんだ、ある牧師の物語

第6章 サリー・ウィリアムス

——麻薬中毒とエイズを克服した、ある女性の物語

第7章 ビル・バート／シンシャ・アドラー

——わたし自身の物語

第8章 W・H・R・リバーズ

——ひとりの人類学者、精神科医の道徳的・人間的体験の物語

第9章 おわりに

付 録

対談Ⅰ 病いを生きる —— 2009年11月19日

対談Ⅱ 『八つの人生の物語』を巡って —— 2010年9月7日

Arthur Kleinman：ハーバード大学教授、精神科医

かいとう あきら：京都大学大学院教育学研究科教授、文学博士、臨床心理士

たかはし ひろし：翻訳家

四六判 358頁 / 定価 2940円（本体 2800円 + 税）

ISBN978-4-414-42863-6

2011年9月5日刊行

# 悲嘆カウンセリング

臨床実践ハンドブック



J.W. ウォーデン 著 山本 力 監訳  
上地雄一郎・桑原晴子・濱崎 碧 訳

大切な人を失うほど悲しく辛い経験はない。それでも遺された人は、周囲に支えられながら、その人がいない世界に馴れ、適応していく。初版以来高い評価を受けてきた本書は、遺された人のグリーフワークの旅路に寄り添い、同行する人たちが必携すべき「地図」であり、バイブルと評されている。臨床心理士や看護師、精神科医、ソーシャルワーカー、そして支援者の人たちにぜひお奨めしたい。

- 
- 序 論 新しい悲嘆の概念  
第1章 愛着、喪失、悲嘆経験  
第2章 喪の過程における4つの課題  
第3章 喪の過程に影響を与える媒介要因  
第4章 悲嘆カウンセリング：通常の悲嘆の促進  
第5章 異常な悲嘆反応：複雑な喪の過程  
第6章 悲嘆セラピー：複雑性悲嘆の解消  
第7章 喪失の特別なタイプと悲嘆の営み  
第8章 悲嘆と家族システム  
第9章 カウンセラー自身の悲嘆  
第10章 悲嘆カウンセリングの訓練  
——研修方法と事例スケッチ

---

J. William Worden：アメリカ心理学会・臨床心理学部門のフェロー。カリフォルニア州のローズミード大学大学院教授

やまもと つとむ：岡山大学大学院教育学研究科教授，臨床心理士  
かみじ ゆういちろう：岡山大学大学院教育学研究科教授，臨床心理士  
くわばら はるこ：岡山大学大学院教育学研究科講師，臨床心理士  
はまさき みどり：岡山大学大学院教育学研究科修了，臨床心理士

---

A5判 350頁 / 定価 4200円（本体 4000円＋税）

ISBN978-4-414-41445-5

---

2011年10月10日刊行

# 大災害と子どものストレス

子どものこころのケアに向けて



藤森和美・前田正治 編著

臨床、教育、福祉などに関わる専門家による大災害に遭遇した子どもへのケアの仕方を救急マニュアルとしてまとめたものである。本書は、多くの子どものこころのなかにある災害時の恐怖、不安、悲しみ、痛み、に精神保健の専門家が力を出し合い協力することによって、被災者や被災者の周囲にいる人を支えようという目的でまとめられている。ケースごとに読みきりとなっているので、どこからでも読めてすぐに活用できる。

1 子どもが体験する災害 / 2 乳幼児のストレスマネジメント / 3 低学年児童のストレスマネジメント / 4 高学年児童のストレスマネジメント / 5 思春期の子どもの災害反応 / 6 子どもにみられやすい身体化症状 / 7 子どもと睡眠障害 / 8 災害と発達障害の子ども / 9 子どもの PTSD 診断 / 10 子どもの PTSD の歴史 / 11 子どもの認知行動療法 / 12 子どもの PTSD と薬物療法 / 13 子どもへの PE / 14 子どもへの TF-CBT / 15 被災後の保育・子育て支援 / 16 学校教員のメンタルヘルス / 17 職場のメンタルヘルス対策と子ども / 18 演劇によるこころのケア / 19 地域精神保健・児童福祉と子ども / 20 突然の死を家族に告げるとき / 21 子どもを亡くした遺族の悲しみ / 22 子どもの悲嘆反応 / 23 子どもの悲嘆のケア / 24 養育者が精神的病気になる時 / 25 なぜ放射線は怖いのか / 26 異文化の地での災害ストレス支援 / 27 支援者のストレス / 28 災害後の調査と倫理 / 29 アートによるトラウマへの接近案

補遺資料 1 ケアの原則

補遺資料 2 「災害を体験した子どもたちの心のケア」

ふじもり かずみ：武蔵野大学人間関係学部教授、臨床心理士

まえだ まさはる：久留米大学医学部准教授

B5判 142頁 / 定価 1890円 (本体 1800円 + 税)

ISBN978-4-414-40068-7

2011年9月15日刊行

# 展望 現代の社会心理学 3 社会と個人のダイナミクス



唐沢 穰・村本由紀子 編著

人間社会を俯瞰しながらその動きを論じるシリーズ第3巻。集団と組織（意思決定、組織のマネジメントなど）、世論と集合現象（政治意識、消費者行動など）、社会問題（高齢者と福祉社会、地域社会と防災など）、文化と適応（社会的なジレンマなど）を解説する。

[全3巻]

第1巻 個人のなかの社会 定価 4620 円

第2巻 コミュニケーションと対人関係 定価 4200 円

## 第I部 集団と組織

第1章 集団問題解決

——問題解決装置としての小集団とその性能

第2章 組織の規範とマネジメント

第3章 集団間の関係

第4章 社会的公正

## 第II部 世論と集合現象

第5章 社会ネットワーク

第6章 世論と政治意識

第7章 消費者行動

第8章 集合行動

## 第III部 社会問題

第9章 高齢者と福祉社会

第10章 地域社会と防災

第11章 環境問題と行動

## 第IV部 文化と適応

第12章 社会的ジレンマと協力

第13章 人間行動への進化的視点

第14章 文化的存在としての人間

からさわ みのる：名古屋大学環境学研究科教授

むらもと ゆきこ：横浜国立大学大学院国際社会科学研究所教授

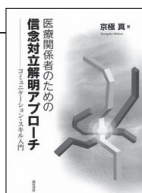
A5判 346頁 / 定価 4410 円（本体 4200 円 + 税）

ISBN978-4-414-30175-5

2011年9月10日刊行

# 医療関係者のための 信念対立解明アプローチ

コミュニケーション・スキル入門



京極 真 著

医療関係者であれば、一度は体験する信念対立。自己の信念を疑うことなく強硬に主張する当事者同士の争いは、不幸にも周囲のスタッフや患者をも巻き込み、結果的に最善の医療を提供するという目標から医療者を遠ざけてしまう。この不毛な「信念対立」の争点を解明し、その対立を軽減・解決へ導くための方法論を、豊富な想定問答事例とともに開示。構造構成主義の旗手が満を持して書き下ろす、医療関係者のための、ポジティブで仕事のしやすい職場を再生するための書。

## 第Ⅰ部 理論編

- 講義 1 信念対立とはどんな問題？
- 講義 2 構造構成学とは何か
- 講義 3 信念対立を解明するとはどういうことか——解明論
- 講義 4 人間とは何か——構造構成的人間論
- 講義 5 信念対立解明の諸条件——条件論

## 第Ⅱ部 技法論編

- 講義 6 解明師の「構え」をつくる——解明態度
- 講義 7 信念対立解明アプローチに通底するコミュニケーション・スキル——解明交流法
- 講義 8 信念対立解明アプローチのアセスメント——解明評価
- 講義 9 信念対立解明アプローチの基礎技法——解明術壱号
- 講義 10 信念対立解明アプローチの基礎技法——解明術弐号
- 講義 11 信念対立解明アプローチの基礎技法——解明術参号

## 第Ⅲ部 仕上げ編

- 講義 12 解明評価スキルアップ・トレーニング
- 講義 13 解明術スキルアップ・トレーニング
- 講義 14 信念対立解明アプローチとは何か

きょうごく まこと：吉備国際大学大学院准教授

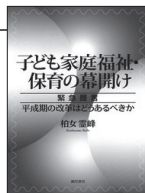
A5判 308頁 / 定価 3675円（本体 3500円 + 税）

ISBN978-4-414-80205-4

2011年10月5日刊行

# 子ども家庭福祉・保育の 幕開け

緊急提言 平成期の改革はどうあるべきか



柏女霊峰 著

今、子ども家庭福祉は大改革を迎えている。「子ども・子育て新システムの基本制度案要綱」が少子化社会対策会議で決定されたが、子どもの育ち、子育ての実態と制度との乖離の未解消感は今もなお否めない。本書は、現在進められている制度改革の動向を整理・考察し、保育、障害児福祉、社会的養護、児童健全育成の4大改革や制度の隘路に対する取り組みについてまとめ、行政実施体制と財源の一元化を目指す必要性を示した、緊急提言である。

- 
- 序章 子ども家庭福祉の幕開け
- 第1章 子ども家庭福祉制度改革のこれまで  
——戦後から昭和の時代
- 第2章 平成期の子ども家庭福祉法改正  
近年の子ども家庭福祉の動向と方向性 / 他
- 第3章 平成期の子ども家庭福祉改革の到達点と今後の課題  
全体的展開 / 政策の具体的展開 / 他
- 第4章 保育・子育て支援の幕開け  
——親と子のウエルビーイングを目指して
- 第5章 児童健全育成の幕開け  
——豊かな放課後生活の保障と生きる力の育成を目指して  
児童健全育成の課題と放課後児童クラブ改革の視点 / 他
- 第6章 社会的養護の幕開け——あたりまえの生活を目指して  
社会的養護の現状と課題 / 社会的養護の近未来像 / 他
- 第7章 障害児福祉の幕開け——地域生活支援を目指して
- 第8章 「こうのとりのゆりかご」が問いかけるもの  
——公民の協働を目指して
- 第9章 今後の子ども家庭福祉の展望  
——ソーシャル・インクルージョン目指して

---

かしま れいほう：淑徳大学総合福祉学部教授・同大学院教授

A5判 294頁 / 定価 3570円（本体 3400円＋税）

ISBN978-4-414-60149-7

---

レビュー誠信書房出版案内

R

テーマ

「子どものこころのケア」に関する本

2009年刊行

## 学校安全と子どもの 心の危機管理

教師、保護者、スクールカウンセラー、養護教諭、  
指導主事のために



藤森和美 編著

小学校や中学校で起きる事故や災害に際して、  
教師や関係者が対処すべきことを集めた。

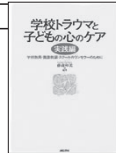
B5判 142頁 / 定価 2415円 (本体 2300円 + 税)

ISBN978-4-414-40050-2

2005年刊行

## 学校トラウマと 子どもの心のケア 実践編

学校教員・養護教諭・スクールカウンセラーのために



藤森和美 編著

学校における様々な事件・事故・出来事に対して  
心理的な緊急支援をどうするか実践的に紹介。

A5判 260頁 / 定価 2730円 (本体 2600円 + 税)

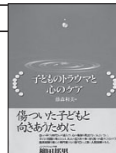
ISBN978-4-414-40026-7

1999年刊行

## 子どものトラウマと心のケア

藤森和美 編著

「キレる」「学級崩壊」などの新語に代表される  
子どもたちの精神健康の問題を「トラウマ」と  
いうキーワードから考える。



四六判 252頁 / 定価 2520円 (本体 2400円 + 税)

ISBN978-4-414-40346-6

seishin preview 113  
2011年10月15日発行

株式会社 誠信書房  
〒112-0012  
東京都文京区大塚 3-20-6  
電話 03-3946-5666  
FAX 03-3945-8880  
<http://www.seishinshobo.co.jp/>

Paper: グラフイー CoC